カット野菜 新工場

水戸の旭物産 多様な商品開発

【水戸】カット野菜製造大手の旭物産（水戸市、林正二社長）は水戸市内に新工場を建設する。2017年春に既存工場からの移転完了を目指す。投資額は37億円で、生産能力は既存工場の2倍となる。

カット野菜市場は拡大するとともに消費者ニーズも多様化しており、増産により商品開発の幅を広げる。

旭物産は茨城県内で3工場を稼働しているが、生食用のカット野菜は全て水戸工場（水戸市）で製造している。現在の生産能力は金額ベースで50億円。このほど着工した新工場は水戸工場から近く、同工場の機能を全面移管する予定で、16年内の完成を目指す。

新工場の延べ床面積は約1万平方㍍と水戸工場の2倍以上の広さで、生産能力も100億円と倍増する見通し。工場には新たな製造設備を導入し、多様な商品開発につなげるという。

旭物産はスーパーのプライベートブランド（PB＝自主企画）商品など100種類以上のカット野菜を生産している。近年ではスーパーからの新商品開発の要望は多様化し、例えばゆでた野菜をパックして電子レンジで温めて食べるカット野菜の要望などがある。現工場ではこれらの商品に対応できるだけのスペースがなかった。

独自のNB（ナショナルブランド）の開発強化も狙う。